

「がん診療レジデントマニュアル」第2版

国立がんセンター中央病院内科レジデント 編集

(財)札幌がんセミナー理事長, 北海道大学名誉教授

小 林 博

がん基礎研究の最近の進歩はめざましいものがあり, がんの本能解明に迫りつつある。がん臨床においても同様, その歩みは基礎研究ほどの華々しさはないものの, 着実にその成果をあげている。いまや“がん=死”であった暗黒の時代は終わりを告げ, がんとの“対話”が可能となりつつある。しかし, がんの暗いイメージは一般人だけではなく, なお多くの医療者の心の内にも残像のように存在しているのではないだろうか?

そのようなイメージを吹き払うために, がんの標準治療の普及という大きな理想をかかげた“小さな大著”が「がん診療レジデントマニュアル」である。その初版が国立がんセンター中央病院内科レジデントの編集により出版されたのは1997年であるが, その後好評のうちに広く臨床の最前線で活用され, 今回最新のが

ん情報を追加するのみならず婦人科, 泌尿器科, 皮膚科などの新領域を加えて, 全面改訂の第2版が出版された。

現在, 臨床医学は情報開示やインフォームド・コンセントなどの大きな変化の中にある。そのため, 実地医療は単なる思いつきやひらめきではなく, 確実な臨床データの裏づけを持ち広く世界の中で受け入れられる標準的なものでなければならないし, その必要性はこれからますます増してくるであろう。がんの臨床も決してその例外ではなく, むしろその過中にあるとみるべきである。

このマニュアルは国立がんセンター中央病院で行われている最新の治療法を具体的に表し, がん治療の実際をコンパクトに示している実用の書である。従来の包括的な腫瘍内科学の教科書にあるような概要的なものではなく, より斬新で, なおか

つ明快で極めて実地的なものである。したがって若い研修医はもちろん, ベテランの専門医にとっては知識の再確認のために, 更にはがんの一般医療者にとってもがんの標準的治療を確認する手段として極めて有用と信ずる。

“がんの標準”とは時々刻々変わっていくものである。したがって今後ともこのマニュアルは標準的がん治療の変化を提示し続ける責任があり, そのためには常に刷新される必要がある。願わくはこのマニュアルが国立がんセンターレジデントの諸君の手によって代々受けつがれ, 末長く改訂され続けられるものであることを期待する。

● B6変型 頁352 図30 表120
2000 定価(本体3,800円+税) 送料実費